3がつ11にちを
わすれないためにセンター

center for remembering 3.11

資料カタログ

- ☑ DVD
- ☑ パネル
- ☑ ウェブ

and more...

3がつ11にちをわすれないためにセンター

center for remembering 3.11

資料カタログ

- ☑ DVD
- ☑ パネル
- ☑ ウェブ

and more...

はじめに

この冊子は、2015年に発行した活動報告に続くものとして、「3がつ11にちをわすれないためにセンター」発足後から現在に至るまでに公開されたDVD・展示パネル・ウェブサイトで公開している記録を紹介する資料カタログです。東日本大震災から2カ月足らずで発足したこのプラットフォームは、復興へと歩む、あるいはときに立ち止まる10年の中で、参加者から寄せられた映像・写真・音声・文章を保存し、公開してきました。それらはまだアーカイブされたものの一端ですが、東日本大震災から10年を機に、より多くの方に使っていただけるよう願い、ここにまとめています。

わすれン！DVD

1 2011東日本大震災　仙台ー市民の記録 P13
2 東日本大震災　東北朝鮮学校の記録 2011.3.15-3.20 P13
3 車載映像 2011.3.27　仙台―塩釜―仙台港―仙台 P14
4 あいだのことば P14
5 沿岸部の風景 P15
6 どうか記憶よ離れないで P15
7 車載映像 2011.6.10　多賀城―七ヶ浜・汐見付近―海岸沿い P16
8 東日本大震災　東北朝鮮学校の記録 part.2 After School P16
9 絆で醸す「日本一」の酒～支援へのお返し P17
10 測量技師たち―The surveyors― P17
11 傾いた電柱―高野原団地　宅地被害からの復旧― P18
12 Onagawa Curry & Film vol.3 蒲鉾本舗高政　高橋正樹さん P18
13 Café de Monk P19
14 声の届き方 P19
15 ここから P20
16 地鎮 P20
17 行けるところまで行き、しかるべき場所で P21
18 仙台のがれき撤去 P21
19 米崎町のりんご農家の記録 P22
20 あなたは2011年3月11日をどのように過ごしましたか？ P22
21 沿岸部の風景（2013年版） P24
22 intéressée ―アンテレッセ― P24
23 閖上録　スクリーン・ヴァージョン P25
24 ルート45 P25
25 亘理鉄道の車窓から P26
26 仙台の下水道災害復旧 P26
27 過去を見直して、今を見つめる P27
28 南三陸の解体 P27
29 移りゆく／その過程 P28
30 夕潮の帰り道　vol.1 P28
31 迷走する柳の葉を追いかけんとする熊の子 P29
32 HaTiDORi P29
33 閖上録（2014年編集版） P30
34 夕潮の帰り道　vol.2 P30
35 迷走する熊の子のその後 P31
36 筆甫　宮城県南からの声 P31
37 福田十二神楽 P32
38 福島の光景 P32
39 Tango Karamarito P34
40 木町の3.11―ふるさとへの想い― P34
41 連作 閖上録　アーカイブシリーズ（1）
美田園第一仮設住宅 自治会長 P35
42 連作 閖上録　アーカイブシリーズ（2）
閖上さいかい市場振興会 会長 P35
43 連作 閖上録　アーカイブシリーズ（3）
ダンサー・振付家 P36
44 連作 閖上録　アーカイブシリーズ（4）
名取市文化会館 避難所自治会長 P36
45 連作 閖上録　アーカイブシリーズ（5）
名取市文化会館 スタッフ P37
46 方言でやっぺ！名取閖上版桃太郎 P37
47 はるのそら P38
48 Flying Tohoku #1 P38
49 中世山城遺跡新井田館跡を
震災復興中央区に変える過程のごく一部 P39
50 福島の光景+α（2014） P39

わすれン！DVD

51 村に住む人々 P40
52 うみやまさんぽ　Walking the Solstice P40
53 みんなで作っぺ！仮設で「たこ焼きパーティー」 P41
54 5年後の飯舘村調査 P41
55 小国春熊猟2016 P42
56 さぐば P42
57 広域避難者の今を考える P44
58 仮設で仮装カラオケ大会「みんなで歌うっぺ！」 P44
59 石と人 P45
60 岩沼災害ボランティアセンタースタッフインタビュー P45
61 石巻災害ボランティアセンタースタッフインタビュー P46
62 女川災害ボランティアセンタースタッフインタビュー P46
63 中屋敷 P47
64 車載映像 2013.6.25 七郷―荒井―蒲生干潟 P47
65 釜石災害ボランティアセンタースタッフインタビュー P48
66 根をほぐす P48
67 今日は市バスに乗って、荒浜へ P49
68 互盆松鹿樂＋超絶祭2017-1次会「互行乃儀」 P49
69 新しい庭 P50
70 anatta P50
71 バンテジーから3.11後の東北へ P52
72 小さな藍祭り P52
73 経路研究所（1）仙台市若林区井土（海岸公園冒険広場） P53
74 経路研究所（2）石巻市立雄勝小学校 P53
75 経路研究所（3）仙台市立荒浜小学校 P54
76 経路研究所（4）東松島市大曲浜保育所 P54
77 経路研究所（5）宮城県七ヶ浜町菖蒲田浜 P55
78 経路研究所（6）福島県相馬郡新地町 P55

資料一覧
DVD
パネル
ウェブ
資料のつかいかた
わすれン！参加者になるには

79 生きられる家（1）岡田地区　吉田さん宅 P56
80 生きられる家（2）岡田地区　二瓶さん宅 P56
81 生きられる家（3）七ヶ浜　渡辺さん宅 P57
82 生きられる家（4）蒲生地区　渡辺さん宅 P57
83 小国春熊猟2017 P58
84 飯舘村に帰る P58
85 あなたと話したい P59
86 東日本大震災 山元町の記録　忘れまじ この悲しみを P59
87 飯舘村に帰る（バリアフリー対応） P60
88 震災記録を見る、読む、囲む ―『飯舘村に帰る』バリアフリー上映の記録― P60
89 中野伝承プロジェクト　日和山と中野小太鼓編 P62
90 中野伝承プロジェクト　婦人防火クラブ編 P62
91 中野伝承プロジェクト　中野小学校への避難編 P63
92 中野伝承プロジェクト　西原新聞編 P63
93 中野伝承プロジェクト　なかのコミサイ編 P64
94 中野伝承プロジェクト　復興対策委員会編 P64
95 中野伝承プロジェクト　3.11大津波編 P65
96 『二重のまち』を読む、踊る（2017年1月の陸前高田にて） P65
97 かげを拾う P66
98 とおくはちかい（reprise） P66
99 ここは出口ではない P67

展示パネル

1	NPO法人20世紀アーカイブ仙台　3.11キヲクのキロク、そしてイマ。	P73
2	工藤寛之　震災のまえとあと1	P73
3	一般社団法人ReRoots　仙台市若林区の定点観測写真	P74
4	NPO法人創る村　東松島市新東名周辺の定点観測写真	P74
5	工藤寛之　震災のまえとあと2	P75
6	髙橋親夫+NPO法人都市デザインワークス 南蒲生地区の定点観測写真1	P75
7	レインボーアーカイブ東北　震災体験の手記	P76
9	髙橋親夫+NPO法人都市デザインワークス 南蒲生地区の定点観測写真2	P77
10	3月12日はじまりのごはん ーいつ、どこで、なにたべた？ー	P77
11	七郷小学校避難タイムライン　このとき、どこで、どうだった？	P78
12	定めた点から観て測る 2016春	P78
13	3.11オモイデアーカイブ　3.11定点撮影プロジェクト	P79
14	東日本と熊本　震災の中の市民生活	P79
15	長町・荒浜の定点観測写真	P80
16	3月12日はじまりのごはん ーいつ、どこで、なにたべた？ー2019年版	P80

ウェブサイトで公開している記録

えいぞう	海岸公園冒険広場での津波の記録	P85
えいぞう	学校と震災　仙台市立荒浜小学校	P85
しゃしん	震災前と後の風景　陸前高田市	P86
しゃしん	仙台市内の3月11日から4月10日までの様子	P86
おと	みみで眺める　北釜／名取市	P87
おと	わすれン！録音小屋　03同僚の女性とのお話	P87

コラム ほか

	3がつ11にちをわすれないためにセンターとは	P 8
コラム	当事者ではないからこそできる記録	P23
コラム	記録を見る／見せることと対話の場―「星空と路」	P33
コラム	地続きにある身近な問題として	P43
コラム	記録の虫たち	P51
コラム	見る、読む、囲む　震災記録を読み解く機会づくり ―バリアフリー上映の取り組み―	P61
コラム	震災記録に出会う場所 ―ちいさな移動式資料室「アーカイヴィークル」	P68
コラム	「利活用」からわすれン！に参加する	P81
コラム	ふたりで震災にまつわる物語を残すプロジェクト「録音小屋」	P88
	資料のつかいかた	P90
	わすれン！参加者になるには	P92

3がつ11にちをわすれないためにセンターとは

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」（略称：わすれン！）は、2011年の東日本大震災による甚大な被害・影響に対して、市民、専門家、アーティスト、そしてスタッフらが協働し、独自に復旧・復興の過程を記録・発信するプラットフォームとして、同年5月3日にせんだいメディアテークが開設したものです。

これまで、ビデオカメラなどの技術や経験の有無にかかわらず、趣旨に賛同した人びとが参加者となり、一人ひとりが体験した「震災」を映像、写真、音声、文章などで記録してきました。寄せられた記録は適切な権利処理がなされたのち「震災の記録・市民協働アーカイブ」として整理・保存され、ウェブサイトでの公開、DVDパッケージでのライブラリーへの配架、展示と上映企画「星空と路」の開催など、さまざまなかたちで利活用されています。さらに、記録を皆で囲み語り合う場づくりも行ってきました。

東日本大震災から10年を経た今日、それと向き合い続ける人びと、そして新たに向き合おうとする人びとととともに、わすれン！はあろうとしています。

わすれン！DVD

参加者が記録した映像の一部を「わすれン！DVD」として発行しています。その内容は、一口に震災記録といっても多種多様です。このDVDは、個人での視聴のみならず、上映会や展示の開催、映像を見ながら語り合う場をつくるなど、さまざまな形で利活用していただけます。ここでは、センター発足後から2021年春までに制作したすべてのDVDを紹介します。

「わすれン！DVD」に収録されている映像は、わすれン！に寄せられた記録のごく一部。ウェブサイトでは、そのほかの映像も見ることができます。

No.

1 2011東日本大震災 仙台ー市民の記録

Data.

制作／末武保政
撮影日／2011年3-5月・7-8月
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2011年
収録時間／27分
関連するDVD／16、69

震災による地すべりの被害にあった仙台市青葉区中山。そこに住む末武保政さん夫婦は、行政から避難勧告を受けたものの、長く暮らした家を離れることも忍びなく、傾いた地盤を直すことにします。震災直後から、電気やガス、水道まで止まりながらも工夫して生活する様子を残した記録。

No.

2 東日本大震災　東北朝鮮学校の記録 2011.3.15-3.20

Data.

制作／コマプレス
撮影日／2011年3月15日-3月20日
撮影地／宮城県仙台市・石巻市・女川町
制作年／2011年
収録時間／67分
関連するDVD／8

校舎が全壊した東北朝鮮初中級学校。この映像は、被害の状況だけでなく、そのような中でも、全国の関係者から届く救援物資を近隣地域に提供するなど、東北の仲間たちと取り組んだ支援活動を写し取ったものです。行政の支援のありかたを問うとともに、たくましく生きる人びとの姿の記録。

No. 3

車載映像 2011.3.27 仙台－塩釜－仙台港－仙台

Data.

記録／木村グレゴリオ
撮影日／2011年3月27日
撮影地／宮城県仙台市・多賀城市・塩釜市
制作年／2011年
収録時間／91分
関連するDVD／7、64

地震からほどない2011年3月末、車にカメラを載せて道々を走る車載映像による記録。流れる視界に映るのは、がれき、工事車両、ガソリンスタンドに続く長蛇の列、そして、道の途中で一変する景色です。

撮影ルート：仙台市宮城野区―塩釜市東玉川町―仙台港―仙台市宮城野区、国道45号線―県道35号線―国道45号線―県道10号線―県道139号線―県道23号線

No. 4

あいだのことば

Data.

監督／小森はるか
撮影日／2011年4月-2012年2月
撮影地／宮城県石巻市、岩手県陸前高田市
制作年／2011-2012年
収録時間／64分

この記録は、2011年3月末から東北沿岸部に通い続けた小森はるかさんと瀬尾夏美さんのふたりが石巻と陸前高田で出会った人びととの1年を撮影したものです。食卓を囲みながら語られる、津波のこと、かつてのまちの姿、友人たちの話題。時間の経過の中で、少しずつだけれども見えてくる落ち着き。

No. 5

沿岸部の風景

Data.

ディレクター／鈴尾啓太
撮影日／2011年4月・6月・9月・12月
撮影地／岩手県大槌町・陸前高田市・大船渡市、宮城県石巻市・南三陸町・女川町・名取市、福島県南相馬市
制作年／2011-2012年
収録時間／90分
関連するDVD／21

震災後1年あまりの被災地の風景と、そこに生きる人びとの姿を記録した映像。かつて家があった場所に残るヘドロをかき分ける人、先祖の墓を探す人、友人の迎えを待ち続ける人……大きな悲しみのあとも続くそれぞれの日常の断片を映像に閉じ込めたようなこの記録は、ことば少なに目の前の光景を見つめる撮影者のまなざしそのもののようです。

No. 6

どうか記憶よ離れないで

Data.

監督／高野裕之
撮影日／2011年5月14日・5月21日・6月4日、2012年2月26日
撮影地／宮城県名取市・仙台市、福島県新地町
制作年／2011-2012年
収録時間／52分

タイトルが示す切実さは、震災直後からがれき撤去や災害復旧に従事する職として目の当たりにした、沿岸部の津波被害の深刻さをうまく伝えられない制作者のもどかしさの表れと言えるでしょう。自らの目で見た光景を、映像を通じて家族や友人、あるいは誰かに伝えようとして撮影された記録。

No. 7

車載映像 2011.6.10 多賀城－七ヶ浜・汐見付近－海岸沿い

Data.

記録／木村グレゴリオ
撮影日／2011年6月10日
撮影地／宮城県多賀城市・七ヶ浜町
制作年／2011年
収録時間／51分
関連するDVD／3、64

震災から約３カ月後の２０１１年６月に車を走らせ撮影された車載映像による記録です。緑が茂る道、ブルーシート、工事中の家々。

撮影ルート：多賀城市町前―大代―七ヶ浜町汐見台―前島―花渕浜―多賀城市大代、県道10号線―県道58号線

No. 8

東日本大震災 東北朝鮮学校の記録 part.2 After School

Data.

制作／コマプレス
撮影日／2011年6月15日-10月15日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2011年
収録時間／67分
関連するDVD／2

『東日本大震災 東北朝鮮学校の記録 2011.3.15-3.20』に続く、震災から半年を迎えた東北朝鮮初中級学校の記録。日常生活を取り戻すためのさまざまな動きがある中、解体を迫られた自分たちの学び舎（ハッキョ）の光景と、それとは対照的なまでに日常を過ごす子どもたちの姿が記録されています。

No. 9

絆で醸す「日本一」の酒 ～支援へのお返し

Data.

ディレクター／佐藤陽子、関口幸希子
撮影日／2011年6月24日-7月27日
撮影地／宮城県大崎市
制作年／2011-2012年
収録時間／16分

日本酒「伯楽星」の醸造元である新澤醸造店は、震災で築140年の歴史を持つ蔵が全壊判定を受けましたが、日本のみならず海外からも差し伸べられた支援の手に応えるべく、あらたな酒造りに取り組みます。復興への誓いも込め、2011年夏、全国から集まった48の蔵元仲間による酒造りの記録。

No. 10

測量技師たち －The surveyors－

Data.

監督／志子田勇
撮影日／2011年7月29日-7月31日
撮影地／岩手県陸前高田市
制作年／2011年
収録時間／13分

津波で流され荒れ地となったまちを訪れる測量技師たちを描いた物語。「映画に何ができるのか」という問いから、実際の風景を取り込みながら生まれた本作は、創作と記録の区分を越え、フィクションを通じて現実を見つめる試みとなっています。311仙台短篇映画祭映画制作プロジェクト作品「明日」の一篇である同名作の長尺版。

No. 11 傾いた電柱 ―高野原団地　宅地被害からの復旧―

Data.

取材・編集／川名まこと
撮影日／2011年9月11日・9月13日・10月8日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2011-2012年
収録時間／21分

仙台市にある高野原団地の宅地被害の実態と、復旧への道のりを追った1年間の記録。行政の復旧策に対する怒りと不安、脆弱な造成への疑問、修繕費用の工面のむずかしさなど、さまざまな問題を抱える住民たち。沿岸部の津波被害に比べてあまり知られていない内陸部の被害について知ることができる映像です。

No. 12 Onagawa Curry & Film vol.3 蒲鉾本舗高政　高橋正樹さん

Data.

ディレクター／宮崎厚志
撮影日／2011年10月7日
撮影地／宮城県女川町
制作年／2011-2012年
収録時間／30分

創業75年、女川を代表する特産品のかまぼこをつくってきた蒲鉾本舗高政。震災後に避難所でかまぼこを配ったときの人びとの涙や笑顔を見て、食べ物の力を再認識したという四代目・高橋正樹さんが、どうすれば女川に恩返しができるか、故郷への想いや復興に向けた方策について語ります。

No. 13 Café de Monk

Data.

ディレクター／team Ra+
撮影日／2011年10月20日-2012年1月12日
撮影地／宮城県石巻市・仙台市
制作年／2011-2012年
収録時間／16分

震災後、被災者への傾聴（語り手の話をよく聞くことを通じて理解・共感すること）を目的として設けられた移動喫茶「Café de Monk」（カフェ・デ・モンク）での様子をとらえた映像です。宗派の壁を越え、東日本大震災後の信仰のありかたを問う僧侶たちの活動の記録。

No. 14 声の届き方

Data.

ディレクター／伊藤照手
撮影日／2011年11月13日-2012年1月14日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2011-2012年
収録時間／40分
関連するDVD／32

仙台で開催された「さようなら原発1000万人アクション」で行われたイベント「脱原発市民ウォーク」。記録者は、こうした活動をする人たちとそれを外から見ている人たちとの間に、大きな壁があると感じます。無関心や伝わらなさはどこからくるのかを知るために、後日まちの人たちにインタビューをした記録。

No.
15 ここから

Data.

ディレクター／山岡大地
撮影日／2011年12月17日
撮影地／福島県福島市
制作年／2011年
収録時間／11分

2011年冬、鉄道飯坂線（福島―飯坂温泉）の車窓からの風景。雪が降り一度溶けたあと、ところどころに白が残る家々、道路、行き交う車。温泉街からまちへ向かう夕暮れ時の景色を眺めます。どこにでもありそうな町並みの中に特別な想いを抱く撮影者の心情が映し出されるような映像。

No.
16 地鎮

Data.

制作／末武保政、末武二三子
撮影日／2011年3月11日-2012年4月30日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2012年
収録時間／20分
関連するDVD／1、69

『2011東日本大震災　仙台一市民の記録』に続き、仙台市青葉区中山にある末武保政さん・二三子さん夫婦の自宅再建の過程を撮影した映像。自宅の傾斜を修復するアンダーピニング工法の次に行われたのは、地割れで全壊した庭の再建でした。震災直後から、新しい庭ができるまでの1年の記録。

No.
17 行けるところまで行き、しかるべき場所で

Data.

記録／ 木村グレゴリオ・トス・オビシマ
撮影日／2011年3月11日-2013年1月26日
撮影地／宮城県気仙沼市・女川町・石巻市・東松島市・松島町・七ヶ浜町・仙台市
制作年／2013年
収録時間／46分

震災直後から2013年冬までの間に、宮城県内で撮影した映像を時系列でまとめた記録。震災当日の仙台市内の自宅の様子から始まり、その後、沿岸部の被災地が映し出されます。復旧が進む土地、なかなか進まない土地、時間の経過とともに変化するそれぞれの様子。

No.
18 仙台のがれき撤去

Data.

監督／高野裕之
撮影日／2011年5月-10月、2012年4月
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2013年
収録時間／65分

仙台市からがれき撤去の仕事を引き受けた建設会社。その会社を経営し現場に立つ当事者が撮った記録。被災家屋の状況やがれき撤去にともなう諸問題、従事していた人びとが働く様子など、津波被害の恐ろしさだけでなく、復旧についての別の側面に触れる映像です。

No.19 米崎町のりんご農家の記録

Data.

監督／小森はるか
撮影日／2011年5月23日-2012年5月14日
撮影地／岩手県陸前高田市
制作年／2013年
収録時間／42分

小森はるかさんと瀬尾夏美さんは、ボランティア活動をきっかけに、陸前高田市米崎町で暮らすりんご農家の夫婦宅を訪ねました。津波によってりんご畑と自宅を失い、残った小屋で暮らす夫婦。多くを失いながらも同じ場所で暮らし続けるふたりの変わらぬ日常が映し出されます。

No.20 あなたは2011年3月11日をどのように過ごしましたか？

Data.

監督／高野裕之
撮影日／2011年5月28日・6月25日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2012年
収録時間／22分

震災後間もない時期に、仙台市内に住む記録者の友人たちから3月11日の行動を詳細に聞き取ったインタビュー記録。ライフラインの途絶、燃料や食料の不足など、かつてない混乱の中でどのように対応したか。それぞれが体験したそれぞれの震災。

Column

当事者ではないからこそできる記録

関連する資料 | DVD 4、14、19、22、27、31、33、51

東日本大震災のことを伝えようとする時、「当事者」とは誰のことを言うのか、当事者ではない者に語る資格はあるのかということがしばしば問われてきました。特に当事者のことが意識されるようになったのは、撮影技術やインターネットによって、映像や写真、語ることを通じて表現することが容易になったことと関係しているのかもしれません。誰もがこの震災のことについて表現できるようになったぶん、そのことが別の誰か（当事者）を傷つけたりはしないかという悩みや葛藤が露わになったのです。

何か自分にできることはないかと、それぞれの立場から記録に取り組むわすれン！の参加者もまた、同じような悩みを抱えてきました。しかし、たとえ自分が当事者でなくとも、その立場から見えてくることに意味があるでしょうし、傷つけてしまうことを恐れ、迷いながらも当事者に近づこうとするその態度が共感を得ることもあるでしょう。

DVD22『intéressée —アンテレッセ—』（監督：Yako Kimura）
当事者ではない立場の記録者が、当事者を含むさまざまな人に震災のことを問いかけ、そのことばや振る舞いを記録した映像。

No. 21

沿岸部の風景（2013年版）

Data.

監督／鈴尾啓太
撮影日／2011年6月・8月・9月・12月、2012年1月・8月
撮影地／岩手県大槌町・大船渡市・陸前高田市、宮城県気仙沼市・南三陸町・女川町・石巻市・名取市、福島県南相馬市
制作年／2013年
収録時間／96分
関連するDVD／5

震災後１年あまりの被災地の風景とそこに生きる人びとの姿を記録した『沿岸部の風景』に、翌2012年の映像を追加して再編集したもの。避難所で暮らす人びと、写真を探す元歌手、猫を探す老人、荒れ地の真ん中で畑を耕す人……淡々と流れる時間の中にそれぞれの表情が浮かび上がります。

No. 22

intéressée ―アンテレッセ―

Data.

監督／Yako Kimura
撮影日／2012年6月2日-8月3日
撮影地／岩手県盛岡市・田老町・大槌町・釜石市、宮城県仙台市・亘理町、東京都千代田区・調布市、アメリカ
制作年／2012年
収録時間／79分
関連するDVD／39、70、85

La personne intéressée とは「ある関わりをもつ当事者」のこと。自身が海外在住者であるYako Kimuraさんが、2012年の夏、震災が投げかけた多くの問いと向き合い、それぞれの想いと葛藤を抱えながらこの現実に関わろうとする人びとの姿を記録していきます。

No. 23

閖上（ゆりあげ）録 ―スクリーン・ヴァージョン

Data.

制作／細谷修平
撮影日／2012年6月8日-7月27日
撮影地／宮城県仙台市・名取市
制作年／2013年
収録時間／83分
関連するDVD／33、41-45

震災直後、急遽避難所となった名取市文化会館。本来は避難所として想定されていなかった文化施設で、人びとはどのように日々を過ごしたのか。2006年にこの会館で公演を行ったダンサーの砂連尾理（じゃれおおさむ）さんが、避難所生活を余儀なくされた名取市閖上（ゆりあげ）の人びとと対話を試みた記録です。

No. 24

ルート45

Data.

監督／高野裕之
撮影日／2012年6月24日・11月24日
撮影地／青森県八戸市、岩手県久慈市・田老町・宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市、宮城県気仙沼市・南三陸町・雄勝町・女川町・石巻市・仙台市
制作年／2012年
収録時間／21分

震災翌年、車にカメラを載せて道々を走る車載映像による記録。沿岸部の被災地をつなぐ国道45号線を、青森県の八戸から宮城県の仙台まで走る道では、ある程度がれきが撤去された土地は何も失くなり、一見似たような風景が広がるものの、流れる視界には地域ごとの違いが映し出されます。

No.
25 亘理鉄道の車窓から

Data.
監督／高野裕之
撮影日／2012年6月30日
撮影地／宮城県亘理町・山元町
制作年／2012年
収録時間／13分

亘理町と山元町を通る県道38号線。津波に襲われたこの土地で、甚大な被害を直視することのむずかしさを乗り越えるために、記録者はこの道路を架空の鉄道に見立てて撮影してみます。電車に乗って車窓からの風景を見るように津波の痕を眺める、亘理から磯浜漁港までを映した映像。

No.
26 仙台の下水道災害復旧

Data.
監督／高野裕之
撮影日／2012年7月11日-2013年1月19日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2013年
収録時間／35分

地震で大きな被害を受けた仙台市内の下水道。普段は目にすることのない地下のインフラですが、衛生的な暮らしを支える重要なものです。その復旧工事を内側から眺め、地盤沈下、液状化、地下水などと闘いながら、細かく地道な作業工程を積み重ねていく姿を映像におさめています。

No.
27 過去を見直して、今を見つめる

Data.
制作／杉本健二
撮影日／2012年9月5日
撮影地／宮城県女川町・石巻市・仙台市
制作年／2013年
収録時間／74分

大学進学により仙台で東日本大震災を経験することになった杉本健二さんは、石巻市の大川小学校区に実家を持つ友人の案内により、その地を訪ねます。変わり果てた光景や、家族から聞く住民の葛藤や想い、そして友人自身のまなざしを前にして、変わりゆく記録者の心情。

No.
28 南三陸の解体

Data.
監督／高野裕之
撮影日／2012年9月7日-2013年1月25日
撮影地／宮城県南三陸町
制作年／2013年
収録時間／35分

津波被害を受けた南三陸合同庁舎の解体作業の記録。建物の解体は一気に行うのではなく、手作業による細かな分別作業と高度な操作による重機によって、安全にも配慮されながら進みます。コンクリートの破壊音が響き渡る中、大型重機の繊細な動きをとらえた映像です。

No.
29 移りゆく／その過程

Data.

制作／細谷修平
撮影日／2011年9月18日-9月26日
撮影地／宮城県石巻市
制作年／2013年
収録時間／80分

震災後から石巻で支援活動をしていたテント芝居集団「野戦之月海筆子（ヤセンノツキハイビィーツ）」。彼らはいつしか「劇団系ボランティア」と呼ばれるようになり、支援活動の一方で、9月の約1週間にわたりテント公演を行います。彼らの活動と、連続公演の日々を記録した映像。

No.
30 夕潮の帰り道 vol.1

Data.

監督／高野裕之
撮影日／2012年10月6日・10月7日
撮影地／宮城県仙台市・名取市
制作年／2012年
収録時間／8分
関連するDVD／34

東日本大震災から1年7か月。日常を取り戻した内陸部（仙台市青葉区）と、雑草が生い茂る沿岸部（名取市閖上）を歩く映像。夕暮れ時に賑わい出す街中とは対照的に、静かに日が暮れていく人気のない道。それぞれの道を歩くことで復旧・復興の時差がはっきりと感じられます。

No.
31 迷走する柳の葉を追いかけんとする熊の子

Data.

制作／中谷可奈
撮影日／2012年11月26日-2013年1月15日
撮影地／宮城県南三陸町・石巻市・仙台市
制作年／2013年
収録時間／16分
関連するDVD／35

「俺が柳の葉やりますんで熊の子になって追いかけてください」―ノイズミュージックを叫ぶ主人公と、彼を記録する撮影者。撮る側も撮られる側も、東日本大震災を経験しなかった者としてどのように人と関わっていけるのか。葛藤を抱えながらことばを交わすことのむずかしさ、わかり合えなさに向き合おうとした記録。

No.
32 HaTiDORi

Data.

制作／伊藤照手
撮影日／2013年1月26日・2月17日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2013年
収録時間／46分
関連するDVD／14

森が燃えているのを見たハチドリが、くちばしで水のしずくを一滴ずつ運んで消そうとする寓話になぞらえ、震災後、さまざまな世代の人びとに原発・放射能の問題を考えるきっかけを持ってもらいたいと開かれた「HaTiDORi」という対話の場。そこに集い何ができるかを考えた人びとの記録です。

No. 33 閖上録（2014年編集版）

Data.

制作／細谷修平
撮影日／2012年6月8日-7月27日
撮影地／宮城県仙台市・名取市
制作年／2012-2014年
収録時間／100分
関連するDVD／23、41-45

震災直後、急遽避難所となった名取市文化会館。本来は避難所として想定されていなかった文化施設で、人びとはどのように日々を過ごしたのか。避難所生活を余儀なくされた６人に話を聞いた『閖上録—スクリーン・ヴァージョン』を、その聞き手であったダンサー・砂連尾理さんの語りも加えて再編集したもの。

No. 34 夕潮の帰り道 vol.2

Data.

監督・撮影／高野裕之
撮影日／2013年8月3日-8月17日
撮影地／岩手県盛岡市・宮古市
制作年／2013年
収録時間／24分
関連するDVD／30

東日本大震災から２年後の夏、約100km離れた沿岸部（宮古市）と内陸部（盛岡市）を同時期に歩いた記録です。さんさ祭りで賑わう街中とは対照的に、静かな海沿いのまちには雑草が生い茂り、震災当時のことを語る人の姿がありました。時間が経ち記憶が薄れていく中で、沿岸部と内陸部の違いを浮き彫りにした映像。

No. 35 迷走する熊の子のその後

Data.

制作／中谷可奈
撮影日／2013年4月4日-2014年1月26日
撮影地／宮城県気仙沼市・仙台市・名取市、福島県浪江町、大阪府大阪市
制作年／2013-2014年
収録時間／30分
関連するDVD／31

前作『迷走する柳の葉を追いかけんとする熊の子』から１年。震災という出来事との距離をはかりながら暮らす「被災しなかった」者たちの日常。ことばにできないもどかしさ、何もできないふがいなさを抱えながら、それを「何の意味も持たない」ノイズ・ミュージックとして奏でます。

No. 36 筆甫（ひっぽ） 宮城県南からの声

Data.

制作／刈田路代
撮影日／2013年4月10日-6月30日
撮影地／宮城県丸森町
制作年／2013-2014年
収録時間／63分

原発事故で深刻な被害を受けながらも、福島県でないがために同じような補償を得られなかった宮城県南部の丸森町筆甫（ひっぽ）地区の人びと。仙台から筆甫に移住した記録者が、その土地と人びとの姿にカメラを向けます。懸命に暮らす人びとのことばと、その間に差し込まれる初夏の山里の風景。

No.
37 福田十二神楽

Data.

制作／岩崎孝正
撮影日／2013年4月30日-11月16日
撮影地／福島県新地町・いわき市
制作年／2013-2014年
収録時間／39分

福島県新地町で代々受け継がれる福田十二神楽。震災から２年後の 2013年、神楽師と呼ばれる子どもたちの活動の様子と、神職へのインタビューを撮影した映像です。伝統の舞と、それを伝える人びとの営み。

No.
38 福島の光景

Data.

制作／岩崎孝正
撮影日／2013年8月9日-12月19日
撮影地／福島県飯舘村・南相馬市・浪江町・富岡町
制作年／2013-2014年
収録時間／50分
関連するDVD／50

福島県相馬市出身で、震災当時東京在住だった岩崎孝正さんが、震災から２年後の福島を撮影した映像。倒壊した建物、積み上げられた廃材、たなびく除染作業の旗、そんな中でも果敢に波に乗るサーファーたち。カメラは地元である被災地の現状を静かに映し出します。

Column

記録を見る／見せることと対話の場——「星空と路」

毎年3月に開催される「星空と路」の様子。

東日本大震災が起きた日の夜は、広い範囲で停電となり、多くの人びとがさまざまな想いで星の瞬く夜空を見上げました。「星空と路（みち）」という名前には、あの日から今日までを振りかえりつつ、これから歩んでいくべき道のりを考える機会となるようにという願いが込められています。

日頃、わすれン！で行われている活動は、個人的なきっかけからだったり、小さなコミュニティのことだったりします。そのため、その取り組みはゆっくりとしたものになりがちですが、「『星空と路』で発表すること」をひとつの目標にしてもらうことで、コツコツと進む活動の励みになればと考えています。発表当日、わすれン！参加者と来場者が映像や展示物を囲みながら語り合うことは、年に一度、あらためてあの日のことを考える契機でありつつも、単なる儀式ではない、現在進行形の出来事としてとらえなおす機会となるのです。そうして「星空と路」は続いています。

No. 39

Tango Karamarito

Data.

監督／Yako Kimura
撮影日／2013年8月23日-10月21日
撮影地／アメリカ、フランス、イタリア
制作年／2013-2014年
収録時間／68分
関連するDVD／22、70、85

日本で起こった震災は、国外に暮らす人びとに何を問いかけたのか。海外在住者でもあるYako Kimuraさんが、在外日本人と、日本に関わりを持つフランス人を訪ね歩き、その一人ひとりと震災やその後について交わした会話の断片の記録です。

No. 40

木町の3.11 ―ふるさとへの想い―

Data.

制作／仙台市立木町通小学校・木町の3.11実行委員会2013
撮影日／2013年8月28日-10月24日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2014年
収録時間／92分

東日本大震災から2年後の2013年、仙台市立木町通小学校の児童たちが、震災当時の様子や営業再開までの道のりなどを地域の人びとへインタビューした映像。まちの菓子店、スーパーマーケット、そして小学校の先生など、子どもたちの問いに大人たちが語ります。

No. 41

連作 閖上録　アーカイブシリーズ（1）美田園第一仮設住宅 自治会長

―ああいう集会所で、
またみんなとバカ話をしていたい―

Data.

制作／細谷修平
撮影日／2012年6月8日
撮影地／宮城県名取市
制作年／2012年
収録時間／60分
関連するDVD／23、33

ダンサーの砂連尾理さんが震災翌年に名取市閖上を訪れ、避難生活を送っていた人びとと対話した『閖上録』を人物ごとに再編集したシリーズ。美田園第一仮設住宅の自治会長をやってきた高橋善夫さんは「人に助けられたので少しでも恩返しができれば」と語ります。

No. 42

連作 閖上録　アーカイブシリーズ（2）閖上さいかい市場振興会 会長

―頭で考えるんじゃなくて、
身体で反応するでしょ―

Data.

制作／細谷修平
撮影日／2012年6月8日
撮影地／宮城県名取市
制作年／2012年
収録時間／36分
関連するDVD／23、33

ダンサーの砂連尾理さんが震災翌年に名取市閖上を訪れ、避難生活を送っていた人びとと対話した『閖上録』を人物ごとに再編集したシリーズ。みんなでおにぎりを握る中で徐々に関係性が育まれたという伊藤喜光さんの話に、共同生活を送る上での鍵がうかがえます。

No. 43

連作 閖上録　アーカイブシリーズ（3）ダンサー・振付家

―個人の問題を越えて、何か多くの人と語り合っていく―

Data.

制作／細谷修平
撮影日／2012年7月27日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2012年
収録時間／33分
関連するDVD／23、33

ダンサーの砂連尾理さんが震災翌年に名取市閖上を訪れ、避難生活を送っていた人びとと対話した『閖上録』を人物ごとに再編集したシリーズ。対話を続けた砂連尾さん本人が、その動機とともに、彼らから受け取ったもの、受け取ろうとしたものについて語ります。

No. 44

連作 閖上録　アーカイブシリーズ（4）名取市文化会館 避難所自治会長

―「おはよう」って言うだけで、その一言なんですね―

Data.

制作／細谷修平
撮影日／2012年6月8日・7月26日
撮影地／宮城県名取市
制作年／2012年
収録時間／126分
関連するDVD／23、33

ダンサーの砂連尾理さんが震災翌年に名取市閖上を訪れ、避難生活を送っていた人びとと対話した『閖上録』を人物ごとに再編集したシリーズ。被災した家と仮住まいを往復する日々を過ごす赤間勲さん。先が不透明な状況の中、仲間たちと「閖上大漁唄い込み」を唄います。

No. 45

連作 閖上録　アーカイブシリーズ（5）名取市文化会館 スタッフ

―肩の力を抜いてもらったりするにはどうしたらいいんだろう―

Data.

制作／細谷修平
撮影日／2012年6月9日
撮影地／宮城県名取市
制作年／2012年
収録時間／47分
関連するDVD／23、33

ダンサーの砂連尾理さんが震災翌年に名取市閖上を訪れ、避難生活を送っていた人びとと対話した『閖上録』を人物ごとに再編集したシリーズ。避難所となった名取市文化会館で働く渡邊由香さんは、会館が果たすべき役割が震災後大きく変わったとして、何ができるのかと自問します。

No. 46

方言でやっぺ！名取閖上版桃太郎

Data.

制作／柳引祐希子
撮影日／2014年3月22日
撮影地／宮城県名取市
制作年／2014年
収録時間／38分
関連するDVD／53、58

方言を通じて被災者の支援をしている名取市の「方言を語り残そう会」。美田園第一仮設住宅での支援活動を始めて３年目に、方言劇『桃太郎』を企画します。被災者と支援者が一緒になって地元の踊りと歌で鬼を退治する物語に、笑い声と手拍子が響く賑やかな集会所。方言の解説字幕付き。

No.
47 はるのそら

Data.

制作／中鉢優、濱田直樹
撮影日／2014年4月
撮影地／宮城県仙台市・亘理町
制作年／2014年
収録時間／53分

はるのそら
3がつ11にちをわすれないためにセンター
「3がつ11にちをわすれないために」センターは、大学間連携防災ネットワークを中心とした、それぞれの機関で収集した、3.11にまつわる映像を、ひとつのアーカイブとして、ひとつのテーマとして、ひとつの目的として、ひとつの場所として、ひとつの時間として、ひとつの人として、ひとつの心として、ひとつの記憶として、ひとつの歴史として、ひとつの未来として、ひとつの世界として、ひとつの宇宙として、ひとつの神として、ひとつの仏として、ひとつの魂として、ひとつの命として、ひとつの愛として、ひとつの平和として、ひとつの幸せとして、ひとつの笑顔として、ひとつの涙として、ひとつの怒りとして、ひとつの悲しみとして、ひとつの苦しみとして、ひとつの喜びとして、ひとつの楽しみとして、ひとつの希望として、ひとつの夢

No.
51 村に住む人々

Data.
制作／岩崎孝正
撮影日／2011年3月-2014年5月
撮影地／福島県相馬市
制作年／2014年
収録時間／48分

福島県出身で、東京で震災を経験した岩崎孝正さんは、2011年３月末に故郷の相馬市に戻り家族や友人たちを訪ねます。あの日からのことを問いかける彼に対し、重々しい態度でことばを返す友人たち。経験を伴う当事者と、その経験を想像することが困難な非当事者との距離感。

No.
52 うみやまさんぽ Walking the Solstice

Data.
制作／一般社団法人対話工房
撮影日／2013年3月-2015年12月
撮影地／宮城県女川町
制作年／2013-2015年
収録時間／22分

震災で大きな影響を受けた宮城県女川町。そこにある出島には「天狗のしわざ」と言い伝えられるストーンサークルの遺跡があります。これが天体の動きと関連しているのではないかという仮説を立てた研究者と、彼のもとに集った仲間たちによる取り組み「うみやまさんぽ」の３年間の記録。

No.
53 みんなで作っぺ！ 仮設で「たこ焼きパーティー」

Data.
制作／櫛引祐希子
撮影日／2015年2月28日
撮影地／宮城県名取市
制作年／2015年
収録時間／11分
関連するDVD／46、58

方言を通じて被災者を支援している名取市の市民団体「方言を語り残そう会」と「みやぎ生協仙南ボランティアセンター」の有志が美田園第一仮設住宅で企画したたこ焼きパーティーの記録。みんなが集まる集会所に、方言と笑い声が響き渡ります。

No.
54 5年後の飯舘村調査

Data.
撮影／林剛平
撮影日／2016年3月26日
撮影地／福島県飯舘村
制作年／2016年
収録時間／30分

震災による福島第一原発の事故後、福島県飯舘村で行われている放射能汚染調査。村を巡回する車から見る風景には、黒いフレコンバッグの山がたびたび映ります。今中哲二助教（京都大学原子炉実験所）を中心に、2011年３月より毎年行われている調査に同行した研究者自身が記録者となり、事故から５年後の2016年に撮影した映像。

No.
55 小国春熊猟2016

Data.

撮影／林剛平
撮影日／2016年4月
撮影地／山形県小国町
制作年／2016年
収録時間／124分
関連するDVD／83

東日本大震災で直接的には大きな被害を受けなかったものの、福島第一原発事故による放射能汚染の問題から、県全域で熊の出荷制限がかかった山形県（2017年に解除）。山間部の小国町で熊の放射性物質検査を行う研究者がカメラを携え、春の熊猟に臨むマタギ（猟師）たちの姿を映像で記録しました。

No.
56 さぐば

Data.

撮影／林剛平
撮影日／2016年5月-9月
撮影地／宮城県名取市・南三陸町
制作年／2016年
収録時間／120分

かつて海、浦、川の上での作業場として使われていた「さぐば」と呼ばれる木造の小舟。記録者の林剛平さんは、その小舟の復元のために南三陸町歌津の棟梁・岩石孝喜さんのもとにおもむき、舟づくりの様子を撮影します。震災後の大規模な復旧工事と対照的な手作業の記録。

Column

地続きにある身近な問題として

関連する資料	DVD 14、36、38、51、54、55、84

DVD36『筆甫　宮城県南からの声』（制作：刈田路代）
原発事故で被害を受けながらも、福島県ではないため同じような補償を得られない丸森町筆甫の人びとを記録した映像。

仙台に拠点をおいた取り組みであるわすれン！ですが、東日本大震災がもたらしたものを考えるとき、福島第一原子力発電所の事故とその後の影響のことは外せません。多くの参加者が福島のこと、そして、実は他の地域でも起こっている影響について記録しています。ややもすると「フクシマ」「FUKUSHIMA」と括弧付きの大きな言葉として括られてしまうようになった土地や事象に対して、出身地であるから、関わりのあった土地であるから、あるいは、放射線量のことは日常の問題でもあるから、など、さまざまな理由から記録された資料を見ることができます。地元で何が起きているのかを確かめるように取材するひと、風評被害の影響を受ける地域文化を記録するひと、避難生活を余儀なくされた人びとの声を拾うひと。震災や原発事故の全貌を知ることは到底できなくとも、記録者の身の回りにあることがらを通じて、報道からこぼれ落ちるような小さな、でも、福島と地続きにある切実な問題が見て取れます。

No. 57

広域避難者の今を考える

Data.

記録／濱田直樹
撮影日／2016年5月26日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2016年
収録時間／42分

2016年にせんだいメディアテークで行われたてつがくカフェ「被災地で／から、広域避難者の今を考える」において、問いのきっかけとなった映像。北海道内に避難している人びとへの支援事業を行ってきた一般社団法人北海道広域避難アシスト協会の代表理事・佐藤伸博さんに、避難者の状況や課題などについてインタビューしたものです。

No. 58

仮設で仮装カラオケ大会「みんなで歌うっぺ！」

Data.

制作／柳引祐希子
撮影日／2016年3月4日
撮影地／宮城県名取市
制作年／2016年
収録時間／15分
関連するDVD／46、53

方言を通じて被災者を支援している地元の市民団体「方言を語り残そう会」と「みやぎ生協仙南ボランティアセンター」の有志が名取市の美田園第一仮設住宅で企画した仮装カラオケ大会の記録。みんなが集まる集会所に、方言と笑い声、そして明るい歌声が響き渡ります。

No. 59

石と人

Data.

制作／小森はるか、FIVED
撮影日／2014年-2016年
撮影地／岩手県陸前高田市
制作年／2016年
収録時間／19分
関連するDVD／68

津波により家屋すべてが流された陸前高田市森の前地区。そこに残された巨石「五本松」は、昔から地元の人びとのよりどころでした。かさ上げにより間もなく埋められてしまう五本松を中心とした地域の伝統の復活と、あらたな表現を模索する佐藤徳政さんの活動の記録。

No. 60

岩沼災害ボランティアセンタースタッフインタビュー

Data.

制作／小森はるか+瀬尾夏美
撮影日／2011年9月4日
撮影地／宮城県岩沼市
制作年／2014年
収録時間／31分
関連するDVD／61,62,65

震災後しばらくは「今頑張らないでいつ頑張るんだ？」と休みなく働いたという岩沼市災害ボランティアセンタースタッフの小菅寿美さん。震災直後のこと、その後のセンター運営のこと、そして、県内外からの支援のことなどを、震災から半年後の2011年9月にインタビューしたものです。

No. 61 石巻災害ボランティアセンター スタッフインタビュー

Data.

制作／小森はるか+瀬尾夏美
撮影日／2011年9月5日
撮影地／宮城県石巻市
制作年／2014年
収録時間／35分
関連するDVD／60,62,65

「地震が起きてからよりも起きる前の準備が大切」と語るのは、石巻市災害ボランティアセンタースタッフの今野啓夫さん。過ぎたことは仕方がないが、未来は変えられる。震災から半年あまりでまだ復興の先行きが見えない中で、震災の経験をどう伝えていくかを模索します。

No. 62 女川災害ボランティアセンター スタッフインタビュー

Data.

制作／小森はるか+瀬尾夏美
撮影日／2011年9月18日
撮影地／宮城県女川町
制作年／2014年
収録時間／37分
関連するDVD／60,61,65

津波で社会福祉協議会の事務所が流されてしまい、まず机を置くところから始まったという女川町災害ボランティアセンター。まちの8割が被災し、自身も津波にのまれたというスタッフの須田めぐみさんは「何もなくなった女川町でも好きだと思える」とふるさとへの想いを語ります。

No. 63 中屋敷

Data.

監督／中村友紀
撮影日／2011年5月2日
撮影地／宮城県石巻市
制作年／2011年
収録時間／21分

2011年5月、まちの明かりがつき始めた石巻市では、津波の被害にあった家屋の清掃作業がまだ続いていました。そのような大変な状況の中で、震災当時の話だけでなく、母親との思い出などを語る家主。庭では津波に耐えた柿の木が芽吹き始めています。

No. 64 車載映像 2013.6.25 七郷－荒井－蒲生干潟

Data.

記録／木村グレゴリオ
撮影日／2013年6月25日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2013年
収録時間／46分
関連するDVD／3、7

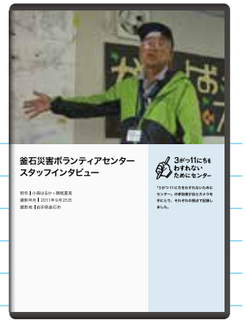
2013年6月、車にカメラを載せて道々を走る車載映像による記録。仙台市の七郷を出発して荒井を通過し、県道10号線から七北田川沿いの139号線に入り、蒲生の海岸付近までを撮影。津波被害を受けた家や住宅基礎、中野小学校跡地など、まちの痕跡が映り込みます。

撮影ルート：七郷―荒井―蒲生干潟

No.
65 釜石災害ボランティアセンター スタッフインタビュー

Data.

制作／小森はるか＋瀬尾夏美
撮影日／2011年9月25日
撮影地／岩手県釜石市
制作年／2018年
収録時間／27分
関連するDVD／60-62



「3月11日の震災がなければもう退職していたはずだった」と語るのは、釜石市災害ボランティアセンタースタッフの矢浦一衛さん。海沿いのまちならではの徹底した防災教育によって助かった小中学校の子どもたちのエピソードなど、震災当時の様子が詳しく伺える、震災から半年後の2011年9月に撮影された映像です。

No.
66 根をほぐす

Data.

制作／小森はるか
撮影日／2016年6月
撮影地／岩手県陸前高田市
制作年／2018年
収録時間／18分

津波で失った店の跡地に自力でプレハブ小屋を建て、種苗店の営業を再開していた佐藤貞一さん。高台移転のため、その店舗を自らの手で解体します。経営を続けながら震災と向き合う姿を記録した映画『息の跡』（監督：小森はるか／2016年）では描かれなかった記録の一編。

No.
67 今日は市バスに乗って、荒浜へ

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影／酒井耕、佐藤正実、佐藤泰、わすれン！
撮影日／2016年12月11日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2018年
収録時間／41分

震災前は市営バスの終点停留所があった仙台市荒浜の深沼海岸前。アーティストの佐竹真紀子さんと3.11オモイデアーカイブの企画によるバスツアー「今日は市バスに乗って、荒浜へ」により、約6年ぶりに海岸前まで市バスが走ります。満員のバスが海岸へと向かう道のりを記録した映像。

No.
68 互盆松鹿樂（ごほんまつかぐら） ＋超絶祭2017-1次会「互行乃儀」

Data.

制作・演出／佐藤徳政
撮影日／2017年4月16日・5月3日
撮影地／岩手県陸前高田市
制作年／2018年
収録時間／18分
関連するDVD／59

津波により家屋すべてが流された陸前高田市森の前地区で、震災前は地域住民のよりどころであり、いまは盛土の下に埋まった巨石「五本松」。この五本松をモチーフにした御輿を担いで練り歩き、「互盆松鹿樂（ごほんまつかぐら）」を舞う、記憶を未来へつなぐ表現の記録。

No.
69 新しい庭

Data.

制作／末武保政、末武二三子
撮影日／2011年-2015年
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2018年
収録時間／30分
関連するDVD／1、16

内陸部ではあるが、震災による地すべり被害で多くの住民が去った仙台市青葉区中山。『2011東日本大震災　仙台一市民の記録』『地鎮』に続き、2011年から7年に渡り、90歳を越えて制作し続けた自宅と庭の再建工事の様子を記録した映像です。

No.
70 anatta

Data.

監督／Yako Kimura
撮影日／2014年-2015年
撮影地／宮城県仙台市・亘理町
制作年／2018年
収録時間／69分
関連するDVD／22、39、85

仏教用語で「無我」を意味するタイトルを持つこの映像は、宮城県の亘理第三集会所で出会った人びとへのインタビューと同行の記録です。震災後も続いていく生活、戸惑いの中でも前を向いて生きていこうとする人びとのことばを、目的もなく、聞こえてくる鳥の声に耳を澄ませるようにして集めたという映像の断片。

Column

記録の虫たち

関連する資料	DVD 1、16 展示パネル 2、5、6、9

ラウンジ展「タイル・ルート・トタン―荒浜・藤塚と浪江の記録―」（2017年）で展示された髙橋親夫さんによる浪江町の記録写真。現在その数は8000枚を超えます。

この本で紹介されているものだけに限らず、多くの記録が蓄積されてきたわすれン！は、もちろん東日本大震災のことを後世に残し伝えようとする意思が原動力であることは間違いありません。しかし一方で、それを支えているもうひとつの力は、「記録の虫」とでも評したくなるような、記録することそのものに熱中する人びとの力であるとも言えるでしょう。まわりの人には理解し難い、ともすれば本人ですら理解できない情熱に突き動かされて、ひたすら記録していきます。

記録活動のサポートや資料の整理を通じて、その記録の山と記録したご本人に触れる私たちスタッフも、それが個人によってなされたとは思えないという驚きと、もはや畏敬の念に近い感情を持つことがあります。とにもかくにも、この記録の虫たちの尽力によって、わすれン！のアーカイブの一端が形づくられているのは間違いありません。

No. 71 バンテジーから3.11後の東北へ

Data.

撮影／林剛平
撮影日／2017年3月11日
撮影地／インド
制作年／2018年
収録時間／54分

日本からインドに渡りインド仏教の最高指導者となった佐々井秀嶺（ささいしゅうれい）上人は、不可触民（カースト未満の人びと）を仏教へと改宗させる運動を行なった中心人物のひとり。インド・ナグプールの人びとから「バンテジー」と呼ばれる彼が、被災地を訪問した際のエピソードと東北へのメッセージを語ります。

No. 72 小さな藍祭り

Data.

撮影／林剛平、鈴木英怜那、軟藍社
撮影日／2017年
撮影地／福島県大玉村
制作年／2018年
収録時間／22分

東日本大震災による原発事故の影響により休耕地となった福島県大玉村。震災後の農業を模索する中、この土地で藍づくりをはじめた歓藍社（かんらんしゃ）が、「道具の発見」と「協同作業」がテーマの「小さな藍祭り」を開催しました。あらたな文化づくりへの試みの記録。

No. 73 経路研究所（1）仙台市若林区井土（海岸公園冒険広場）

英語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影・編集／長崎由幹、細谷修平（わすれン！スタッフ）
撮影日／2011年7月11日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2011年
収録時間／21分

3月11日に津波が来るまでをどのように過ごしたか、避難経路を研究するシリーズ。「バキバキっという音が最初に聞こえて、これはヤバイと思った」と語るのは、津波警報を聞いて来園者らの避難誘導をしたスタッフ。彼らが避難した展望台は、仙台市若林区井土の海岸公園冒険広場の再オープン後「避難の丘」に変わりました。

No. 74 経路研究所（2）石巻市立雄勝小学校

英語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影・編集／長崎由幹（わすれン！スタッフ）
撮影日／2011年7月29日
撮影地／宮城県石巻市
制作年／2011年
収録時間／27分

3月11日に津波が来るまでをどのように過ごしたか、避難経路を研究するシリーズ。石巻市立雄勝小学校の元校長・土井正弘さん。津波を見たとき、想定されていた避難場所では助からないと考え、生徒や地域住民とともに裏山を越えて避難しました。実際の避難ルートを歩きながら、当時の様子や災害時の教訓を語ります。

No. 75

経路研究所（3）仙台市立荒浜小学校

英語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影・編集／佐藤貴宏（わすれン！スタッフ）
撮影日／2011年8月25日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2011年
収録時間／21分

3月11日に津波が来るまでをどのように過ごしたか、避難経路を研究するシリーズ。仙台市立荒浜小学校の元校長・川村孝男さん。海から約700mに位置する校舎には、地震から70分後に津波が到達。必死の避難誘導の末、最終的に屋上へ避難した児童や地域住民ら320人の命を救ってくれた校舎への想いを語ります。

No. 76

経路研究所（4）東松島市大曲浜保育所

英語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影・編集／佐藤貴宏（わすれン！スタッフ）
撮影日／2011年9月19日
撮影地／宮城県東松島市
制作年／2011年
収録時間／23分

3月11日に津波が来るまでをどのように過ごしたか、避難経路を研究するシリーズ。「子どもたちがいたから強くいられた」と語るのは、震災当時、大曲浜保育所にいた保育士の百々静香さん。子どもたちのお昼寝中に地震が起こり、避難する道は渋滞で進まず、最後は車を乗り捨てて走りました。

No. 77

経路研究所（5）宮城県七ヶ浜町菖蒲田浜

英語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影・編集／佐藤貴宏（わすれン！スタッフ）
撮影日／2011年12月1日
撮影地／宮城県七ヶ浜町
制作年／2012年
収録時間／21分

3月11日に津波が来るまでをどのように過ごしたか、避難経路を研究するシリーズ。七ヶ浜町でサーフショップを営む星利成さん。地震後に車で自宅へ向かう途中、ひとり暮らしの友達の母親など数軒のお宅を回り、人びとの安否を確認しました。車で走ったルートを辿りながら、当時のことを振りかえります。

No. 78

経路研究所（6）福島県相馬郡新地町

英語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影・編集／佐藤貴宏（わすれン！スタッフ）
撮影日／2011年12月22日
撮影地／福島県新地町
制作年／2013年
収録時間／34分

3月11日に津波が来るまでをどのように過ごしたか、避難経路を研究するシリーズ。新地町で海の目の前に住んでいた武澤廣征さん。地震後すぐに車で内陸に避難しましたが、祖母がアイロンを消し忘れたことを思い出し、再び自宅へ戻ろうとする途中に津波を目撃しました。実際に避難したルートを辿りながら当時の様子を振りかえります。

No.
79 生きられる家（1）岡田地区　吉田さん宅

英語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影・編集／佐藤貴宏（わすれン！スタッフ）
撮影日／2011年8月8日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2011年
収録時間／15分

津波被害にあった家や土地、そこに住む人びとの復旧・復興のプロセスを記録するシリーズ。仙台市宮城野区の岡田地区に代々住み続けてきた吉田祐也さんは、同じ敷地内に所有する３軒の家が津波で大きな被害を受けました。この地に住み続けることを決めて家を修復し始めた吉田さん宅の、被害状況と修復の記録。

No.
80 生きられる家（2）岡田地区　二瓶さん宅

英語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影・編集／佐藤貴宏（わすれン！スタッフ）
撮影日／2011年9月24日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2011年
収録時間／22分

津波被害にあった家や土地、そこに住む人びとの復旧・復興のプロセスを記録するシリーズ。仙台市宮城野区の岡田地区、貞山堀と七北田川に囲まれていた二瓶進さんの家は、津波により大きな被害を受けました。先祖代々続く土地を守ることが重要だと話す二瓶さん。工事の音が響く中、被害と修復、これからの暮らしについて語ります。

No.
81 生きられる家（3）七ヶ浜　渡辺さん宅

英語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影・編集／佐藤貴宏（わすれン！スタッフ）
撮影日／2011年11月17日
撮影地／宮城県七ヶ浜町
制作年／2012年
収録時間／15分

津波被害にあった家や土地、そこに住む人びとの復旧・復興のプロセスを記録するシリーズ。津波により自宅と工場に大きな被害を受けた渡辺茂さん。基礎が残った敷地に畑をつくり、自宅の部材を再利用して小屋を建てました。まだ復興計画が決まらない中、この場所で過ごすのが「心の安らぎ」だと語ります。

No.
82 生きられる家（4）蒲生地区　渡辺さん宅

英語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影・編集／佐藤貴宏（わすれン！スタッフ）
撮影日／2011年11月17日、2013年2月3日、2015年6月17日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2011-2015年
収録時間／42分

津波被害にあった家や土地、そこに住む人びとの復旧・復興のプロセスを記録するシリーズ。津波により大きな被害を受けた仙台市宮城野区の蒲生地区にある渡辺市雄さん宅を、3回にわたり訪れた際の記録映像。自宅跡にはカメの頭蓋骨やクジラの骨などがあしらわれ、個性溢れる空間がありました。

No.
83 小国春熊猟2017

Data.
撮影／林剛平
撮影日／2017年4月
撮影地／山形県小国町
制作年／2017年
収録時間／69分
関連するDVD／55

震災で直接的には大きな被害を受けなかったものの、福島第一原発事故による放射能汚染の問題から、県全域で熊の出荷制限がかかった山形県（2017年に解除）。『小国春熊猟 2016』に続き、熊の放射性物質検査を行う研究者がカメラを携え、熊猟に臨むマタギ（猟師）たちの山でのコミュニケーションの術を記録しました。

No.
84 飯舘村に帰る

英語字幕あり

Data.
制作／島津信子、福原悠介
撮影日／2017年12月-2018年12月
撮影地／福島県飯舘村・国見町
制作年／2019年
収録時間／56分
関連するDVD／87、88

原発事故の影響で、その全域が計画的避難区域に指定された福島県の飯舘村。避難指示が解除され、6年以上に及んだ仮設住宅での暮らしから村に帰る選択をした人びとがいました。仮設住宅で彼らと交流のあった民話採訪者の島津信子さんが、かつての村の様子や帰村後の暮らし、村への想いを聞いた映像です。

No.
85 あなたと話したい

Data.
制作／Yako Kimura
撮影日／2018年3月-7月
撮影地／宮城県仙台市・亘理町、オランダ
制作年／2019年
収録時間／77分
関連するDVD／22、39、70

海外在住で日本とも行き来のあるYako Kimuraさん。『intéressée—アンテレッセ—』等で海外の人の声を拾うとともに、帰国の度に知人や震災を機に出会った人びとの話も聞いてきました。この映像は、2018年春に再び彼らを訪ね、震災を通じて感じたことや社会的な問題についてインタビューしたものです。

No.
86 東日本大震災　山元町の記録 忘れまじ　この悲しみを

Data.
制作／佐藤修一
撮影日／2011年3月11日-3月16日、6月-7月
撮影地／宮城県山元町
制作年／2018年
収録時間／46分

津波により甚大な被害を受けた山元町。記録者・佐藤修一さんは地震の直後からカメラを回し、災害対策本部や避難所の様子を撮影しました。混乱の中で災害対策本部がどのように機能し、避難した方々に情報が伝達されたか。あの日尽力した人びとの姿が映し出された記録です。

No.
87 飯舘村に帰る（バリアフリー対応）

音声解説・日本語字幕あり

Data.

制作／島津信子、福原悠介
撮影日／2017年12月-2018年12月
撮影地／福島県飯舘村・国見町
制作年／2020年
収録時間／56分
関連するDVD／84、88

避難指示が解除され、村に帰る選択をした飯舘村の人びとに、暮らしや村への想いを聞いた『飯舘村に帰る』のバリアフリー対応版（音声解説・日本語字幕付き）。音声解説・日本語字幕はせんだいメディアテークで活動するボランティアが制作しています。

No.
88 震災記録を見る、読む、囲む
―『飯舘村に帰る』バリアフリー上映の記録―

音声解説・日本語字幕あり

Data.

制作／3がつ11にちをわすれないためにセンター
構成・編集／福原悠介
撮影／相原洋
撮影日／2020年2月-12月
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2021年
収録時間／30分
関連するDVD／84、87

避難指示が解除され、村に帰る選択をした飯舘村の人びとに、暮らしや村への想いを聞いた『飯舘村に帰る』のバリアフリー対応版を上映しようとすることを通じて浮かび上がる、障害のこと、方言のこと、そして震災とその記録への向き合い方について、あらためてさまざまな人が考え関わり合った軌跡の記録。

Column

見る、読む、囲む 震災記録を読み解く機会づくり ―バリアフリー上映の取り組み―

関連する資料	DVD 87、88

目の不自由な方に向けて、登場人物の動きや風景などを音声で解説する「音声解説」を制作するボランティアが、映像を見ながら話し合う様子。

わすれン！ではこれまで、「星空と路（みち）」での上映と対話の場をはじめ、「こえシネマ」や「シネマてつがくカフェ」、「相馬クロニクルダイアログ」など、記録を囲み、そこから何を汲み取るかを語り合う対話の機会づくりを行ってきました。

ところで、せんだいメディアテークには、誰もが気軽に映画を楽しめるよう、目や耳の不自由な方に向けた音声解説と日本語字幕付きのバリアフリー上映があります。これを、映像を囲む対話のもうひとつの実践としてとらえ、飯舘村に帰村した人びとへのインタビュー映像『飯舘村に帰る』のバリアフリー上映に取り組みました。

音声解説と日本語字幕は、当館で活動するボランティアが制作しています。震災記録に映るその土地ならではの風景やことば（方言）を、どのように音声解説と日本語字幕に落とし込むか。映像を見て、読んで、そして、ともに囲んで語る。映ることがらを丁寧に伝えようと、一つひとつの意味を探り、ボランティアの間で繰り広げられた試行錯誤の成果が、バリアフリー対応版 DVD『飯舘村に帰る』には表れています。

No. 89 中野伝承プロジェクト 日和山と中野小太鼓（なかのしょうだいこ）編

Data.

制作／なかの伝承の丘保存会
撮影日／2018年8月18日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2020年
収録時間／67分

東日本大震災の被害を受けた仙台市・旧中野小学校区のことを残し伝える映像のシリーズ。旧中野小学校の東に位置する蒲生（がもう）干潟にある日本一低い山「日和山」。毎年７月に行われる山開きに携わってきた男性たちに、そこで披露されてきた中野小太鼓（なかのしょうだいこ）のこと、その苦労話や地域への想いをうかがったものです。

No. 90 中野伝承プロジェクト 婦人防火クラブ編

Data.

制作／なかの伝承の丘保存会
撮影日／2018年10月20日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2020年
収録時間／57分

東日本大震災の被害を受けた仙台市・旧中野小学校区のことを残し伝える映像のシリーズ。震災当時、同校区では蒲生・港・西原・和田の４町内会に婦人防火クラブがあり、防災訓練など盛んに活動していました。蒲生町内会の婦人防火クラブ員だったふたりに、避難した小学校でのことなどを尋ねたインタビューです。

No. 91 中野伝承プロジェクト 中野小学校への避難編

Data.

制作／なかの伝承の丘保存会
撮影日／2018年12月22日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2020年
収録時間／63分

東日本大震災の被害を受けた仙台市・旧中野小学校区のことを残し伝える映像のシリーズ。震災時、中野小学校にはたくさんの避難者がいました。校舎の１階が津波で被災している状況下、人びとの安全を確保するために先頭に立って活躍した蒲生町内会・西原町内会の３人に、当時の話を聞いたものです。

No. 92 中野伝承プロジェクト 西原新聞編

Data.

制作／なかの伝承の丘保存会
撮影日／2019年8月24日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2020年
収録時間／45分

東日本大震災の被害を受けた仙台市・旧中野小学校区のことを残し伝える映像のシリーズ。同校区にある西原町内会の女性たちは、震災後ばらばらになった住民に向けて「西原新聞」を創刊します。より生活に密着した情報を届けるために尽力した方々に、発行の経緯や思い出などを尋ねたインタビューです。

No.
93 中野伝承プロジェクト なかのコミサイ編

Data.

制作／なかの伝承の丘保存会
撮影日／2019年10月12日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2020年
収録時間／56分

東日本大震災の被害を受けた仙台市・旧中野小学校区のことを残し伝える映像のシリーズ。震災後に発足した中野小学校区復興対策委員会。その議事録を通して震災のことを地域内外に伝えるべく「中野小学校区復興対策委員会のコミュニティサイト（通称：なかのコミサイ）」を開設したふたりへのインタビューです。

No.
94 中野伝承プロジェクト 復興対策委員会編

Data.

制作／なかの伝承の丘保存会
撮影日／2019年12月14日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2020年
収録時間／61分

東日本大震災の被害を受けた仙台市・旧中野小学校区のことを残し伝える映像のシリーズ。震災から9日後、4町内会の役員等が会合を開き「中野小学校区災害対策委員会」（のちに「中野小学校区復興対策委員会」と改称）を発足させます。2019年末にそのメンバーに当時を振りかえるインタビューを行ったものです。

No.
95 中野伝承プロジェクト 3.11大津波編

Data.

制作／なかの伝承の丘保存会
撮影日／2020年9月26日、10月30日
撮影地／宮城県仙台市
制作年／2020年
収録時間／59分

東日本大震災の被害を受けた仙台市・旧中野小学校区のことを残し伝える映像のシリーズ。家族3人が逃げ遅れ津波にのまれつつもみな助かった同地区の高橋誉志男さん、消防団員として避難を呼びかける最中、最後はポンプ車を捨て民家に逃げ込んで助かった村尾裕之さんにあらためて当時のことを尋ねます。

No.
96 『二重のまち』を読む、踊る（2017年1月の陸前高田にて）

Data.

制作／小森はるか
撮影日／2017年1月6日
撮影地／岩手県陸前高田市
制作年／2017年
収録時間／24分

2031年という未来の陸前高田市を舞台に、画家・作家の瀬尾夏美さんが描いた『二重のまち』という物語。同市に暮らす阿部裕美さんが朗読し、その声や風景に呼応するようにダンサーの砂連尾理さんが踊る映像です。重機の音が響く中、復興工事が進むまちを見渡す屋上で行われたパフォーマンスの記録。

No.
97 かげを拾う

Data.

制作・撮影・編集／小森はるか
録音／福原悠介
製作／せんだいメディアテーク
撮影日／2018年12月-2020年10月
撮影地／宮城県仙台市、岩手県宮古市
制作年／2021年
収録時間／73分

仙台在住の美術作家・青野文昭さんの制作風景を追った映像。仙台市八木山と岩手県宮古市における新作制作の中で、「拾う」「なおす」という行為に焦点を当てています。せんだいメディアテーク主催の展覧会「青野文昭 ものの，ねむり，越路山，こえ」（2019年）の関連企画として製作・上映されたものの再編集版。

No.
98 とおくはちかい（reprise）

Data.

制作／屋根裏ハイツ
撮影日／2020年7月27日
撮影地／東京都目黒区
制作年／2020年
収録時間／83分

2017年初演の演劇『とおくはちかい』を全編改稿し、2020年に異なるキャストで上演したものの映像記録。大きな地震があったまちで暮らす知人と、彼をたずねる男。小さな部屋の中で繰り広げられるふたりの会話劇には、震災との距離や人と人との距離、そして時間の経過によってかたちを変える「言い切れなさ」が表れています。

No.
99 ここは出口ではない

Data.

制作／屋根裏ハイツ
撮影日／2020年7月27日
撮影地／東京都目黒区
制作年／2020年
収録時間／102分

仙台で設立された劇団、屋根裏ハイツによる同名作品の上演記録。カップルが暮らす部屋に亡くなった知人がふいに現れ、とりとめのない会話をしながら一晩を過ごす物語。生者と死者の境目が溶け合う記憶と忘却をめぐる本作は、田畑実戯曲賞（主催：人間座／2019年）を受賞しました。

Column

震災記録に出会う場所
——ちいさな移動式資料室
「アーカイヴィークル」

震災の記録をアーカイブしているわすれン！ですが、それに手を伸ばすのはそう簡単なことではありません。少し勇気が必要かもしれないし、最初のきっかけがなかなか見つからないものです。

そこで、まずは記録を手に取ってもらえるようにと考えたのが、移動図書館ならぬ移動式資料室「アーカイヴィークル」です。ハンガーに吊るされた展示パネルをぱらぱらとめくったり、ぎっしりと並んだ「わすれン！レコード」（ウェブサイトの記事をレコードジャケット風に印刷したもの）からレコードを選ぶように気になるものを探してみたり。日常生活の中にある身近な動作で触れることで、気負わずに、ちょっと見てみようと手を伸ばしてもらえたらという想いを込めました。

ときに、この移動式資料室は、館外へ飛び出すこともあります。広場でひらかれた屋台のような姿に道ゆく人は立ち止まり、つかの間でもそこに集い、一緒に想いを巡らせるような時間が持てるのかもしれません。

アーカイヴィークルに立ち止まり記録を眺める人びと。

展示パネル

わすれン！ではこれまで、参加者の方々から寄せられた記録を資料化し、さまざまな利活用の機会づくりに取り組んできました。その際に制作したB2サイズの展示パネルを、展示や震災教育の場面で活用できるよう貸出をしています。ここでは各パネルシリーズの概要を紹介します。

ラウンジ展「定めた点から観て測る2016春」（2016年4月）の会場風景。震災で被害を受けた場所がどう変わったかをわかりやすく伝える定点観測写真のパネルを展示しました。

Series.

1 NPO法人20世紀アーカイブ仙台 3.11キヲクのキロク、そしてイマ。

パネル枚数
▶48枚

Data.

記録／NPO法人20世紀アーカイブ仙台*
撮影地／宮城県仙台市・気仙沼市・栗原市・南三陸町・女川町・石巻市・松島町・塩釜市・七ヶ浜町・多賀城市・名取市・岩沼市
記録日／2011年3月11日-2013年1月13日
制作年／2013年

＊NPO法人20世紀アーカイブ仙台／3.11オモイデアーカイブ について

「NPO法人20世紀アーカイブ仙台」は、その活動の一環として東日本大震災の記録の資料収集・保存・活用を行ってきましたが、発災から5年経過を機に震災アーカイブ部門を独立させ「3.11オモイデアーカイブ」としています。

仙台の懐かしい映像や写真の収集・保存・利活用を行うNPO法人20世紀アーカイブ仙台が、市民から寄せられた震災直後の写真と、それらをもとに1年後の2012年に再び撮影した定点観測写真。震災直後の被害状況とともに、市民が撮影した場所が1年を経てどう変化したかを伝える記録です。

Series.

2 工藤寛之 震災のまえとあと1

パネル枚数
▶11枚

Data.

記録／工藤寛之
撮影地／宮城県女川町・石巻市・仙台市・名取市
記録日／2006年11月12日-2013年7月16日
制作年／2013年

仕事で東北を動きまわる日々の中、ふだんから目についた何気ない風景にカメラを向けていた工藤寛之さんの撮影による、東北沿岸部の定点観測写真。それぞれの場所の震災前にあった暮らしや風景、そしてその震災後の様子が写し出されています。

Series.
3 一般社団法人ReRoots 仙台市若林区の定点観測写真

パネル枚数
▶13枚

Data.
記録／一般社団法人ReRoots
出典／Yahoo！ JAPAN 東日本大震災写真保存プロジェクト
撮影地／宮城県仙台市
記録日／2009年8月15日-2013年9月19日
制作年／2014年

津波被災地域における農業支援・地域支援などの活動に取り組む一般社団法人 ReRoots による定点観測写真。Yahoo！ JAPAN「東日本大震災 写真保存プロジェクト」に公開された、震災前の仙台市若林区東部エリアの写真をもとに、同じ場所ののちの様子を撮影した記録。深沼海水浴場や貞山堀の変化が見て取れます。

Series.
4 NPO法人創る村 東松島市新東名周辺の定点観測写真

パネル枚数
▶13枚

Data.
記録／NPO法人創る村
撮影地／宮城県東松島市
記録日／2011年3月12日-10月2日
制作年／2014年

東松島の NPO 法人創る村は、新たな宅老所兼デイサービス施設「老菜子の家」の開業を目前に、地震と津波による甚大な被害を受けました。このパネルは、創る村のスタッフが被災した施設やその周辺の震災直後とその後の復興の様子を記録したものです。

Series.
5 工藤寛之 震災のまえとあと2

パネル枚数
▶30枚

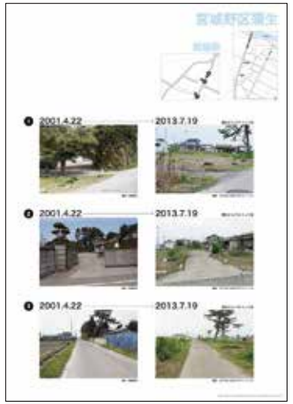
Data.
記録／工藤寛之
撮影地／岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市・女川町・石巻市・仙台市・名取市
記録日／2006年4月11日-2013年8月9日
制作年／2014年

工藤寛之さんの撮影によるパネル「震災のまえとあと 1」に続く、東北沿岸部を撮影した震災前後の定点観測写真。震災前の写真には、海岸公園の豊かな松林や、多くの船が停留する船溜などが写ります。失われた海辺の暮らしや風景、そこからの復興の記録。

Series.
6 髙橋親夫+ NPO法人都市デザインワークス 南蒲生地区の定点観測写真1

パネル枚数
▶13枚

Data.
記録／髙橋親夫、NPO法人都市デザインワークス
撮影地／宮城県仙台市
記録日／2001年4月22日-2013年7月19日
制作年／2014年



NPO 法人都市デザインワークスが、津波で被害を受けた居久根（いぐね）の再生を目指し取り組む「みんなの居久根プロジェクト」。その活動の一環として、長年にわたり地元を記録してきた髙橋親夫さんが震災前に撮影した仙台市・南蒲生地区の写真をもとに、同法人が同じ場所で撮影した定点観測写真です。

資料一覧
DVD
パネル
ウェブ
資料のつかいかた
わすれン！参加者になるには

Series.

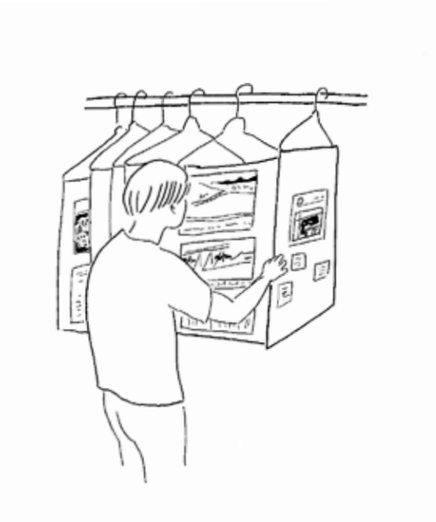
7 レインボーアーカイブ東北 震災体験の手記

パネル枚数
▶20枚

Data.

記録／レインボーアーカイブ東北
制作年／2015年

宮城県仙台市を拠点に、LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）など多様な性の当事者の声を集積・記録・発信する団体「レインボーアーカイブ東北」によって集められた震災体験の手記パネル。当事者がそれぞれに抱えていた特有の困難や想いが記されています。



現在シリーズ８は提供しておりません

Series.

9 髙橋親夫＋ NPO法人都市デザインワークス 南蒲生地区の定点観測写真２

パネル枚数
▶62枚

Data.

記録／髙橋親夫、NPO法人都市デザインワークス
撮影地／宮城県仙台市
記録日／2001年4月22日-2015年6月20日
制作年／2015年

NPO 法人都市デザインワークスと髙橋親夫さんによる「南蒲生地区の定点観測写真 1」に、2015年までの定点観測写真が追加されたパネル。仙台東部の田園地帯に存在していた屋敷を囲む屋敷林・居久根の再生を見ることができます。

Series.

10 3月12日はじまりのごはん －いつ、どこで、なにたべた?－

パネル枚数
▶72枚

Data.

協働／3.11オモイデアーカイブ、3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影地／宮城県仙台市
記録日／2011年3月11日-4月16日
制作年／2015年

わすれン！と、東日本大震災の記録を後世に残すために資料収集・保存・利活用を行う 3.11 オモイデアーカイブが協働で行う「3月12日はじまりのごはん」のふせん付きパネル（複製）。震災当時の「食」にまつわる写真をきっかけに、来場者が思い出した当時の体験や想いをふせんに書く参加型の取り組みです。

Series.
11 七郷小学校避難タイムライン このとき、どこで、どうだった?

パネル枚数
▶42枚

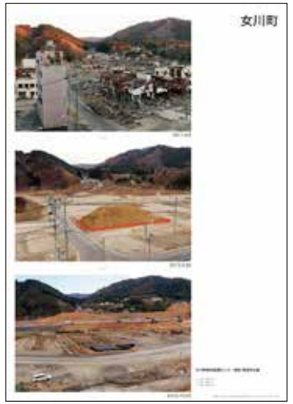
Data.
記録／仙台市立七郷小学校
撮影地／宮城県仙台市
記録日／2011年3月11日-3月19日
制作年／2016年

震災で大きな被害を受けた仙台市立七郷小学校。その経験や教訓を整理して教材とするために、2015年7月に同校で開催した展示「このとき、どこで、どうだった？」の際に集まったふせん付きパネル（複製）です。震災当時の写真を見た児童・教職員・保護者・地域住民による、あの日のできごとや気持ちが書き添えられています。

Series.
12 定めた点から観て測る 2016春

パネル枚数
▶106枚

Data.
記録／3.11オモイデアーカイブ、越後谷出、髙橋親夫、瀬尾夏美、まちづくり部など
撮影地／岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市・南三陸町・女川町・石巻市・塩釜市・東松島市・多賀城市・仙台市・山元町・名取市、福島県新地町
記録日／2001年4月16日-2016年2月26日
制作年／2016年



さまざまな立場の人びとが記録した定点観測写真を紹介するシリーズ企画「定めた点から観て測る」。2016年春の同展示の際に紹介したパネルです。震災がどのような被害をもたらしたか、震災後その場所がどのように変化してきたかがわかります。

Series.
13 3.11オモイデアーカイブ 3.11定点撮影プロジェクト

パネル枚数
▶72枚

Data.
記録／3.11オモイデアーカイブ
撮影地／宮城県仙台市・名取市・気仙沼市・女川町・松島町・東松島市・石巻市・南三陸町・七ヶ浜町・亘理町・塩釜市・多賀城市・岩沼市、岩手県宮古市・陸前高田市、福島県浪江町
記録日／1998年5月31日-2016年11月12日
制作年／2016年

震災後、まちがどのように形を変えながら復旧・復興の道を歩んできたかを記録し続けてきた3.11オモイデアーカイブによる定点観測写真パネル。復興工事によって大きく変貌をとげる町並み、一方でほとんど変化しない場所もあり、土地ごとの変化の速度が見て取れます。

Series.
14 東日本と熊本 震災の中の市民生活

パネル枚数
▶5枚

Data.
記録／3.11オモイデアーカイブ、くまもと震災アーカイブ
撮影地／宮城県仙台市・南三陸町・栗原市、熊本県熊本市・菊池郡菊陽町
記録日／2011年3月12日-4月15日、2016年4月16日-4月23日
制作年／2016年

3.11オモイデアーカイブとくまもと震災アーカイブによる、東日本大震災と熊本地震の市民の生活を記録した写真パネルの一部。被害の度合いを比較されがちなふたつの災害について、市民生活にスポットを当て「比較」ではなく「共通性」を見出すことで、あらためてとらえ直そうとしています。

Series.

15 長町・荒浜の定点観測写真

パネル枚数
▶16枚

Data.

記録／3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影地／宮城県仙台市
記録日／2011年3月12日-2016年12月17日
制作年／2017年

わすれン！スタッフが市民の写真をもとに記録した仙台市若林区荒浜と太白区長町の定点観測写真パネル。津波の被害が大きかった荒浜、そして、仮設住宅があった長町のまちの変化が見て取れます。

Series.

16 3月12日はじまりのごはん －いつ、どこで、なにたべた？－ 2019年版

パネル枚数
▶13枚

Data.

協働／3.11オモイデアーカイブ、3がつ11にちをわすれないためにセンター
撮影地／宮城県仙台市
記録日／2011年3月11日-3月23日
制作年／2019年

3.11オモイデアーカイブとわすれン！が協働で行う「3月12日はじまりのごはん」は、震災当時の「食」にまつわる写真を糸口に、当時の体験や想いを集める参加型の取り組み。2015年の初展示から4年が経った2019年春の展示を経たパネル（複製）では、当事者だけでない遠方の人びとのことばも加わっています。

Column

「利活用」からわすれン！に参加する

この冊子では、わすれン！のアーカイブを利活用いただけるよう願い、資料の一部を紹介してきました。これまでの利活用の事例を振りかえってみると、その用途は実にさまざまです。個人で視聴することはもちろん、上映会や展覧会、社内研修や震災教育の場、あるいは、報道番組やアーティストの創作の素材としても利用されるなど、多岐にわたっています。

また、国境を越えた動きも生まれています。東日本大震災のことを伝えようとする市民の想いと行動力に動かされ、アメリカのワシントン大学で日本語の授業を担当する教員と学生らがわすれン！参加者となり、震災記録の英訳に取り組む「ワシントン大学翻訳プロジェクト」も進行しています。

震災アーカイブは、多くの方々に見てもらってこそ、その多様な意味や価値が見えてくるものであると同時に、それは活動の励みにもなっています。記録をすることだけでなく、「利活用」から始まるわすれン！への参加のかたちもあるのです。

「ワシントン大学翻訳プロジェクト」によって翻訳された記事は、わすれン！英語ウェブサイトで読むことができます。

ウェブサイトで公開している記録

わすれン！のウェブサイトでは、参加者が記録した映像、写真、音声などを記事として公開しています。これらは所定の手続きにより、さまざまな用途で利活用することができます。これから紹介するのは「えいぞう」「しゃしん」「おと」のカテゴリから抜粋した一例です。

日本語サイト
https://recorder311.smt.jp/

英語サイト
https://recorder311-e.smt.jp/

ウェブサイトで公開している記録の利活用事例のひとつで、ウェブ記事をレコードジャケット型に印刷した「わすれン！レコード」。レコード屋さんに行った気分で、手で触れながら見ることができます。

Category.
えいぞう

海岸公園冒険広場での津波の記録

https://recorder311.smt.jp/movie/13114/

Data.

記録者／根本暁生（海岸公園冒険広場スタッフ）
記録日／2011年3月11日
記録場所／宮城県仙台市

子どもの遊び場「海岸公園冒険広場」のスタッフによる震災当日の記録。津波から逃れるために高台に避難し救助されるまでの周囲の状況と行動が、写真や映像を用いながら時系列で綴られ、当時の様子を詳細に知ることができます。

Category.
えいぞう

学校と震災 仙台市立荒浜小学校

https://recorder311.smt.jp/movie/15254/

Data.

記録者／佐藤貴宏（わすれン！スタッフ）
記録日／2011年8月25日
記録場所／宮城県仙台市
シリーズ／学校と震災

児童や地域住民の避難の過程や避難所運営、授業再開などについて聞く「学校と震災」シリーズ。震災後間もない2011年に、仙台市沿岸部の荒浜小学校の先生にうかがったインタビュー映像の記事です。

Category.
しゃしん

震災前と後の風景 陸前高田市

https://recorder311.smt.jp/blog/34005/

Data.
記録者／工藤寛之
記録日／2006年9月27日、2013年8月9日、2015年11月11日、2016年7月2日
記録場所／岩手県陸前高田市

震災前後の写真を比較する「震災前と後の風景」シリーズ。この記事のほかにも、仙台、名取、石巻、女川、気仙沼などがあり、各地で震災前後に撮影された写真を比較することで、同じ場所から見た風景がどのように変化したのかがわかります。

Category.
しゃしん

仙台市内の3月11日から4月10日までの様子

https://recorder311.smt.jp/blog/20768/

Data.
記録者／高橋レオナ
記録日／2011年3月11日-4月10日
記録場所／宮城県仙台市

震災後１ヶ月間に、地震によるまちの被害や被災生活のことを一市民が記録し、写真と文章でまとめた記事。再開した店のこと、復旧の目処が立たない交通機関、ガソリンスタンドの行列など、生活者の目で見た非常時のまちの様子を知ることができます。

Category.
おと

みみで眺める 北釜／名取市

https://recorder311.smt.jp/sound/50644/

Data.
記録者／わすれン！スタッフ
記録日／2014年5月16日
記録場所／宮城県名取市
シリーズ／みみで眺める

重機や行き交うトラックの音、鳥や虫の声、非日常の中の日常会話、生活が消えた土地に響く風の音など、被災地で聞こえるさまざまな音。復旧過程の土地の表情を、さまざまな音を聞くことを通して知る記事です。

Category.
おと

わすれン！録音小屋 03 同僚の女性とのお話

https://recorder311.smt.jp/sound/58720/

Data.
記録者／音声編集・テキスト：水谷仁美（わすれン！スタッフ）
記録日／2019年3月13日
記録場所／宮城県仙台市
シリーズ／わすれン！録音小屋

ふたりひと組で話し手・聞き手となり、当時のことやいまの想いを語り残すプロジェクト「わすれン！録音小屋」による音声。この記事では、職場で震災に遭った同僚同士で被災生活やいまの想いを語り合います。

Column

ふたりで震災にまつわる物語を残すプロジェクト「録音小屋」

震災から時間が経つにつれ、当然ながらわすれン！に寄せられる記録の数も少なくなってきています。けれども一方で、まだ語っていない人たちや、語られていないことがたくさんあるのではないでしょうか。そのような人たちに話してもらう装置はつくれないかと生まれたのが「録音小屋」です。

しかし、いざ語り始めるにしても、さまざまな想いが交錯することは言うまでもなく、そこには話に耳を傾けてくれる「聞き手」の存在が重要なのかもしれません。安心して話すことができる相手がいることで、ぽつりぽつりと語り出される話があるように思います。

録音小屋では、ふたりひと組でどこか懐かしさを感じる小部屋に入り、40分をめやすに震災にまつわる話を録音していきます。相手の話に集中できるようつくられたこの小さな空間で、親密な対話がなされることを期待しています。

※2021年3月現在、新型コロナウイルス感染症の対策のため、利用を休止しています。

録音された音声の一部は、ウェブサイトにて聞くことができます。
https://recorder311.smt.jp/series/rokuongoya

\何を話す?/てがかりとなる質問例

- ○ 震災が起こったあとどうしましたか？
- ○ 震災当時何を食べましたか？
- ○ どれくらいの時期に仕事（学校）を再開しましたか？
- ○ 大変だったことはありますか？
- ○ 当時励みになったことはありますか？
- ○ 震災から今までどのような生活を送ってきましたか?
- ○ 震災前と変わったことはありますか？
- ○ わすれたくないことはありますか？
- ○ わかりあえないと感じることはありますか？
- ○ わかりあうためには何ができると思いますか？
- ○ タイミングを逃したことがありますか？
- ○ 何か決断をしましたか？
- ○ 大切にしてきたものがありますか？
- ○ 最近、考えるようになったことはありますか？
- ○ これからしてみたいことは何ですか？

資料のつかいかた

この冊子で紹介している記録資料は、せんだいメディアテークの各種サービスを通じて見ることができるほか、東日本大震災の伝承を目的とする非営利の活動に使うことができます。

1 せんだいメディアテーク２階の映像音響ライブラリーを通じて（DVD と展示パネル）

せんだいメディアテーク
映像音響ライブラリー
TEL　022-713-4486
FAX　022-713-4485

DVD

DVD は、仙台市図書館で利用者登録をしている方であれば、どなたでも借りて見ることができます。また、学校や社会教育団体で教材ライブラリーに利用者登録をしている場合には、上映会といった団体利用もできます。さらに、利用者登録をしていない個人・団体でも、所定の手続き（「せんだいメディアテーク公開資料の二次利用」手続き）をすれば、視聴だけではなく、報道や調査研究への利用や、上映会等に使うことができます。

展示パネル

展示パネルは、所定の手続き（「せんだいメディアテーク公開資料の二次利用」手続き）を経て借りることができます。それぞれの展示パネルの内容はこの冊子（73 ～ 80 ページ）をご覧いただくか、わすれん！ウェブサイトの「展示パネル一覧」（https://recorder311.smt.jp/information/57794/）でご確認ください。実物の一部は、普段せんだいメディアテーク２階映像音響ライブラリーに設置している移動式資料室「アーカイヴィークル」でも見ることができます。

2 わすれん！ウェブサイトを通じて（映像・写真・音声・文章）

わすれん！ウェブサイトに記事として掲載されている映像・写真・音声・文章は、自由に閲覧できると同時に、所定の手続き（「せんだいメディアテーク公開資料の二次利用」手続き）を通じて、報道や調査研究のほか、刊行物や作品などあらたな制作のために使うことができます。

利用に関するお問い合わせ・お申し込みは、企画・活動支援室のわすれん！担当までお願いします。

３がつ11にちをわすれないためにセンター
（せんだいメディアテーク 企画・活動支援室内）
〒980-0821　宮城県仙台市青葉区春日町 2-1
TEL　022-713-4483
FAX　022-713-4482
E-mail　office@smt.city.sendai.jp

３がつ 11 にちをわすれないためにセンター
（わすれん！）ウェブサイト
https://recorder311.smt.jp/

せんだいメディアテーク公開資料の
二次利用手続きについて
https://www.smt.jp/info/help/contentuseright.html

わすれン！参加者になるには

「震災にまつわる記録を残したい」「発信をしたい」「記録活動をする人のお手伝いをしたい」という方は、ぜひわすれン！にご参加ください。何らかの動機さえあれば、ビデオカメラなどの技術や経験の有無は問いません。また、自分自身が記録の活動をしなくても、たとえばわすれン！の資料を利用した上映会や対話の場をつくる、他の言語に翻訳して海外でもつかってもらうなど、「これまでに寄せられた記録を利活用する」という参加の方法もあります。

参加者になると、せんだいメディアテーク7階のスタジオを利用することができます。スタジオではビデオカメラ等の取材用機材の貸出を行うほか、執筆や、映像・写真の編集などの作業が可能です。

わすれン！参加者として活動をするには、事前の審査と登録が必要です。本センターの趣旨に則り非営利で活動を行う個人・団体であればどなたでも申し込みいただけます。その書類をもとに審査を行い、後日結果をお知らせすることになりますが、まずは、せんだいメディアテーク企画・活動支援室のわすれン！担当までお気軽にお問い合わせください。

3がつ11にちをわすれないためにセンター（せんだいメディアテーク 企画・活動支援室内）
〒980-0821　宮城県仙台市青葉区春日町 2-1　TEL 022-713-4483　FAX 022-713-4482　E-mail office@smt.city.sendai.jp

スタジオにはパソコンやビデオカメラの用意があり、映像や写真の編集、テキスト執筆、情報収集等に利用することができます。

おわりに

この冊子は、東日本大震災にまつわる市民参加型アーカイブ活動「わすれン！」の成果のうち、すでに公開している記録を一望し、ひとりでも多くの方々に実際に活用していただくことを目的に作成しました。

この前段となる、2015年２月発行の『3がつ11にちをわすれないためにセンター 活動報告』では、寄せられた記録に見出される多様な視点や活動を一部整理し、ご紹介しました。同型の本冊子とあわせてご覧いただくことで、わすれン！における「記録・収集」「整理・保存」「資料化」「利活用」というプロセスとこの10年間の成果がおよそ概観できます。そしてDVDのタイトルからは、個々の参加者の存在とその視点の多様さが読み取れます。

わすれン！という取り組みは、市民によるメディアを用いた活動の成果が蓄積され、それらの資料が事業やライブラリーを介して学びの機会を育むという、せんだいメディアテークが開館以来、目指してきた「循環」が具現化された活動です。たとえば、一般的に歴史をあつかう博物館では、地域の過去にまつわる資料を集め、研究し、展覧会を開催、それらの資料を通して市民が歴史を知り、学べる機会づくりに努めています。あるいは、図書館では書籍を何万と蓄積し、人びとはそれを手に取ることができ、なかには貴重な郷土資料なども含まれています。そういった施設の機能が、メディアテークが目指す「循環」において少しだけ異なるのは、わすれン！の記録活動に見られるように、それら資料の生成段階においても市民の参加が可能であるということです。地域の文化に関する出来事にデジタル・メディアを用いてアプローチし、記録、資料化、利活用する、いずれの作業にも知るよろこびや学びがあふれているとメディアテークは考え、その過程への参画を求めているのです。*

発災から10年を経ようとしています。わすれン！では、いまも参加者を迎え入れ、声を届けてくれる方々と関わっています。つまり、わすれン！とは人びとがあの出来事について考えを巡らせることへのサポートであり、伴走です。生涯学習の場であるメディアテークは、「考えを巡らせる」ことのできる時間や空間をデザインすることが役割なのです。そして、その役割は本冊子に掲載された資料の活用においても同様であり、人びとがこれらを囲み、出来事を振りかえることを通して先を構想する、そのような機会へのさらなるみなさんの参画を心より期待しています。

2021年３月

*メディアテークでは現在、このような文化活動としてのデジタル・アーカイブのありようを、人びとが自ら属するコミュニティの文化や歴史を蓄積し活用していく「コミュニティ・アーカイブ」ということばを用いて表現しています。コミュニティ・アーカイブとは…

1） 公的なアーカイブや国家の歴史において、無視されていたり、誤解されていたり、周縁化されていることに対して、自分たちで博物館やアーカイブをつくろうとしていること
2） 自分たち自身のことばで、自分たちの物語を語ろうとしていること
3） コミュニティがアーカイブを管理することによって、何を保管し、何を破壊し、それらをどのように記述し、どのような条件のもとでそれらの記録にアクセスできるのかについての力をもつことができること
4） それによって、自分たちがどのように表象され、集合的・公的記憶の中でどのように構築されるのかについて、一定程度のコントロールが可能になること

引用） Andrew Flinn,M.Stevens & E.Shepherd（2009）Whose memories, whose archive? Independent community archive, autonomy and the mainstream. *Archival Science:* 9（1-2）pp.71-86

参考:『コミュニティ・アーカイブをつくろう！―せんだいメディアテーク「3がつ11にちをわすれないためにセンター」奮闘記』 佐藤知久・甲斐賢治・北野央 著 晶文社

3がつ11にちをわすれないためにセンター 資料カタログ

2021年3月発行

企画・発行　3がつ11にちをわすれないためにセンター（せんだいメディアテーク）
編集・執筆　甲斐賢治、小川直人、水谷仁美、佐藤友理
デザイン　homesickdesign
イラスト　浅野友理子
印刷・製本　今野印刷株式会社

3がつ11にちをわすれないためにセンター
せんだいメディアテーク

〒980-0821　宮城県仙台市青葉区春日町2-1
TEL　022-713-4483
FAX　022-713-4482
www.smt.jp

2021 sendai mediatheque All Rights Reserved.
本書記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

せんだいメディアテーク
sendai mediatheque

謝辞
3がつ11にちをわすれないためにセンター参加者のみなさま、
寄贈者や協力者のみなさまに厚く御礼申し上げます。

3がつ11にち